

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。

問題の作成に当たっては，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理総合」の「B 国際理解と国際協力」における「(1) 生活文化の多様性と国際理解」に関する大問である。生活文化について，祭礼，働き方，消費活動，余暇活動を題材とした。最初に，祭礼を取り上げ，文化や自然環境の相違を問う小問を配置した。次に，多様な働き方の一例としてワーキングホリデー制度を取り上げ，国家間の交流と生活文化との関連を問う小問を配置した。次に，人々の消費活動から，各国の生活文化の地域差を考察する小問を配置した。最後に，日本における余暇活動の地域差の背景を考察する小問を配置した。問1では，写真から読み取った情報と，それぞれの地域で見られる宗教や文化，自然環境に関する既習知識を組み合わせて，自然環境や文化との関わりの中で成立してきた世界の祭礼の多様性を推察する思考力を問うた。問2では，ワーキングホリデー制度を取り上げ，図から読み取った国家間の人の移動とその変化に関する既習知識から，国によって働き方が多様であることを地理的に推察する思考力を問うた。問3では，各国の家計消費支出に関する情報について，国ごとの経済・福祉・文化に関する既習知識をもとに，各国の生活文化に見られる消費活動の特徴を推察する思考力を問うた。問4では，主題図から読み取れる施設などに関する情報について，日本の人口や自然環境の特徴に関する既習知識を組み合わせ，余暇活動の地理的特性を推察する思考力を問うた。

第2問 学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(2) 生活圏の調査と地域の展望」に関する大問である。山口県周南地域を対象地域とし，「沿海部における石油化学コンビナートの発展が，周南地域の地理的景観をどのように変容させてきたのか」をテーマとした探究学習の場面を想定し，地理的技能や思考力を多面的に測る問題として作成した。問1は，写真と地形図から見た海岸地形の特徴，問2は，新旧地形図から見る周南市中心部の変容，問3は，石油化学コンビナートを擁する徳山下松港の輸出入・移出入の特徴，問4は，人口の分布・増減や医療機関の立地に見られる地域内の多様性について，それぞれ地図や統計資料などに基づいて地域を様々なスケールで多面的・多角的に考察することをねらいとした。

第3問 学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(1) 自然環境と防災」に関する大問である。日本列島の多様な自然環境と災害リスクを結び付けて考えることができるかを問うた。前半においては，南北に細長い日本列島の変化に富んだ気候や地形が，身近な地域の自然環境や土地利用に影響を与えていることについて問う問題を配置した。後半は，自然環境の特徴を踏まえた上で，災害リスクや対応を考察させるような問題を配置した。地形図や主題図，グラフの読図といった「地理総合」の学習を通して身に付けるべき

基礎的技能を活用し、自然環境の特徴や自然と人間活動との関わり、自然災害への備えや対応を、多面的・多角的に考察することを目指した。

第4問 学習指導要領「地理総合」の「B 国際理解と国際協力」における「(2) 地球的課題と国際協力」に関する大問である。地球環境、生活文化、紛争などの地球的・地域的課題をテーマにして、それらの実態を把握し、原因やプロセスを理解し、解決の方向性を考察することを狙いとした。まず、地球的課題を広い視野で扱うべく、問1では、世界各地の環境問題に関する小問を、問2では、食料問題に関する小問をそれぞれ配置した。問3では、アフリカに焦点を当てて、紛争や経済発展、それらの地域差に関する小問を配置した。問4では、世界の民族や文化の基盤となる言語に関する小問を配置した。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見についての見解

第1問 大問全体では適切な難易度であったと考えられる。基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されており、資料や文章量ともに適切で「地理総合」との共通問題らしい仕上がりとなっていると評価された。問1は、比較的易しい問題であるが、写真を用いた小問として完成度が高いと評価された。問2は、日本とワーキングホリデー制度を通じた三か国における人の移動の推移に関して、制度だけでなく年代による日本との関係性を考慮して判断する良問であると評価された。問3は、国民皆保険制度の有無やエンゲル係数の高低など複数の一般常識を駆使する良問であると評価された。問4は、図形表現図の違いが判別しやすいと評価を得た一方で、施設の分布のみだけでなく多面的に捉えられるような問題の作成が望まれるとの指摘もあった。全体として、良問と判断されたものが多かったが、平易な問題が多いとの指摘もあった。今後は、これらの指摘を真摯に受け止め、より適切な問題作成に努めたい。

第2問 地域調査の大問として難易度は適切であったと考えられる。全体として、基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な設問で構成されていると評価された。問1は、地形図と景観写真を対照して判断させる定番の形式であり、写真も見やすかったと評価を得た。問2は、基本的な地図記号や地域の変容を読み取る易問であると評価された。問3は、知識とともに資料を丁寧に読み解くことで解答可能な工夫された良問であると評価された。問4は、資料の分量は多いものの丁寧に読み取ることで解答できると評された一方、視認性を改善するための工夫の必要性についての指摘も受けた。全体として、学校現場の参考になる出題であり、学習において身に付けるべき資質・能力の方向性を示しており、資料・文章量・難易度ともに適切なものと評価された。今後も、地域調査を通じて地理的思考力を涵養することの重要性を広く認識してもらえるように、バランスの取れた出題を心掛けたい。

第3問 全体として標準的な難易度の問題であった。様々な資料を複合的に使って判断させる問題であり、日常的な学習において、いかに多様な資料から必要な情報を読み取る機会をもっているかが難易度の違いにつながったとのコメントがあった。問1は、日本の気候について問う際の典型的な3地域の河川流量に関する出題であり、難易度は平易であるとの評価を受けた。問2は、空中写真から海岸地形と河川地形が両方見られる場所の地形と土地利用を読み取る内容であったが、空中写真からの地形・土地利用の読み取りなどの難易度に対する評価が分かれた。問3は、二つの島嶼のハザードマップを読み取り、地形と津波浸水・土砂災害のリスクとの関係や、災害による孤立への備えについて問うた。地図を用いて地形と災害の関係について考えさせる点や、潜在的なリスクの重要性を考えさせた点が評価された。難易度はやや高かった。問4は、避難経路、陰影起伏図、浸水想定区域を示した図を重ね合わせて避難行動につい

て考えさせる問題であり、教材としての価値も高い良問との評価を受けた。いずれも図の読み取りや基本的な知識を基にした思考力を問う設問で構成され、おおむね標準的な難易度であると評価された。一方で、図の読み取りに関する指摘もあった。引き続き学習指導要領を踏まえつつ、高等学校における授業のあり方への提起となるような問題作成に努めたい。

第4問 地球的課題に関して、地図や写真から情報を読み取り、空間的相互作用や地域などに着目して、多面的・多角的に考察する問題であったと評価された。小問別では、問1は、各地点周辺の環境問題について発生要因とその影響に関する知識を基に判断する問題と評価されたが、農業の知識ではなく環境問題の本質を捉えさせる工夫が欲しいという指摘もあった。問2は、各地域の農業や人口規模に関する知識を基に、食料需給の不均衡について考察させる良問と評価された。問3は、アフリカ諸国の経済や資源に関する知識を基に判別可能であるが、「地理総合」としては、要求される知識がやや細かいと指摘された。問4は、少数言語の保護や振興を目的とした取組に関する「地理総合」らしい問題と評価されたが、さらに地理的な見方・考え方に根差した選択肢の作成を求める指摘もあった。こうした評価を踏まえて、今後も「地理総合」の問題としてのバランスに配慮した思考力を問う問題の作成に努めたい。

4 今後の問題作成に当たっての留意点

- (1) 問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、学習指導要領において育成することを旨とする資質・能力を測るための良問で構成されていると評価された。また、「場面設定」の問題では、学校現場の参考となる出題であることが評価されたが、社会や日常の中から課題を発見し解決方法を構想する問題の要望もあった。受験者の学習過程を意識した作問に取り組んでいきたい。
- (2) 全体として、適正な難易度であったとの評価を受けた。「地理総合」での出題として適切な難易度とすることを念頭に、地理的な見方・考え方を働かせて正答を導くことができる問題の作成に心掛けたい。
- (3) 出題範囲については、「地理総合」で扱う内容が万遍なく出題され、標準的な問いを中心にバランスよく配置されており、中学校までの学習を基にしながら幅広い学習が求められる問題構成との評価を受けた。また、基礎的な知識や地理的技能をもとに具体的な資料から必要な情報を読み取り解答する「地理総合」らしい良問もあったとの評価もあった。
高等学校教育の「地理総合」における学習実態に即した内容や表現・形式に留意しつつ、近年の世界情勢や探究課題を踏まえた問題作成を心掛けたい。
- (4) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは、受験者も解答しやすい標準的な内容であり、学習指導要領において育成することを旨とする資質・能力を測ることができる良問であると評価された。一方で、「地理総合」としてどのような学習成果を測っていくかについては改善の余地がある。問題の水準を下げることなく、「主体的・対話的で深い学び」を伴う探究プロセスを重視しながらの作題を行っていきたい。